

水素事業に関するアゼルバイジャンの優位性

水素事業に関するアゼルバイジャンの優位性について、ボストン・コンサルティング・グループの Vladimir Rogov マネージング・ディレクター兼パートナーの発言概要を紹介します。

1. アゼルバイジャンは、水素産業の発展に必要な、「資源」、「インフラ」、「輸出先」が明確であり、優位性を有すると言えます。
2. まず、水素生成の「資源」としての再生可能エネルギーのポテンシャルが高く、再エネ由来の「グリーン水素」の生成コストの低下が期待されます。Global Solar Atlas によれば、太陽光発電のポテンシャルはイタリア南部と同等で、ドイツの約 1.5 倍であるとのこと。また、アブシェロン半島沖の洋上風力発電のポテンシャルは北海に匹敵します。
3. 次に、水素輸送の「インフラ」及び「輸出先」について、既存の欧州向け天然ガスパイプラインを利用できることは大変なアドバンテージです。欧州市場を前提にすれば、サブサハラから水素を液化輸送する場合に比べ、パイプライン輸送は低コストで効率良い輸送です。
4. 今後の欧州での水素需要の増加を踏まえ、新規パイプライン敷設も選択肢となるでしょう。現在、南ガス回廊のうち TAP の輸送能力は年間 110 億 m³です。ここに水素を併せて輸送すると、2030 年のイタリアの水素需要予測 230 万トンの 2～4%程度しか満たせません。
5. 今後、欧州の水素価格は下落すると予測されますが、再エネのポテンシャル、パイプラインによる輸送に鑑みれば、アゼルバイジャンの水素生成・輸送コストは十分な競争力を有しており、年間 2.3 億～5 億ドルの利益を見込めるでしょう。

(以上)